

公立大学法人富山県立大学 入学式 理事長挨拶

平成27年4月6日(月)

アイザック小杉文化ホール ラポール

桜咲く今日の良き日に、富山県立大学に入学された工学部239名、大学院工学研究科82名、計321名の皆さん、入学おめでとうございます。厳しい入学試験を突破され、希望に満ちた頼もしい皆さんをお迎えし、大変うれしく、心から歓迎します。

そして、新入生の皆さんを応援してこられたご両親、ご家族の皆様方にも、お祝いを申し上げます。

また、本日は、寺林富山県副知事様、夏野射水市長様をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、ありがとうございます。

本学は、平成2年に日本海側屈指の工業集積を背景に、富山県立の工学系大学として開学し、今日で26回目の新入生を迎えますが、こんにちまで、教育、研究、地域連携を積極的に推進して実績を上げ、就職に強い、研究力の高い大学として高く評価をいただいております。

一方で、現在、グローバル化が進展し、また今後、18歳人口がさらに減少して大学間の競争が一層激化すると見込まれる中で、本学が地方創生の旗頭として、一段と飛躍し、県民の皆様や産業、社会の期待に応えていくため、本学は、この4月1日から公立大学法人となり、経営体制の強化を図りました。

このたびの法人化により、今まで以上に機動性、透明性の高い大学運営に努めるとともに、産業、社会、研究などの分野で活躍する人材を育成し、大学自体も一層魅力あるものに拡充し、地域に貢献する大学として、しっかりと期待に応えてまいります。

本学は、モノづくりについて、学び、研究する大学ですが、ものづくりは、地方にあっても世界的な競争の中で、常に技術の進歩が求められています。モノづくりを業とするものは、どんな業種であれ、人々の生活や心をより豊かにするニーズに応えられるものが勝ち残り、事業を継続することができるのです。そうした厳しい競争の中で、人々のニーズに応えていく中で、新しい技術、新しい文化が創られていくのです。

先月開業した北陸新幹線は人の交流や経済活動の拡大をもたらし、皆さんが使っているスマートフォンで、いつでもどこでもいろんな情報が入手できることなどは、新しい文化を作る典型的な例ですが、どんな企業も独自の技術を持ち、直接的・間接的に人々の生活や地域の文化を支えているのです。

皆さんにも、本学で学び、そうした人々の生活を支え、新しい文化を創る担い手として、育っていただきたいと思います。

そのためには、今は予測のつかないことも起きる大変変化の激しい時代ですから、そうした時代を生き抜いていくためには、新しいことに消極的にならずに、失敗を恐れず積極的にチャレンジしていくことが大事です。

そして、自分自身の長所短所を知り、長所を伸ばし、短所を克服するよう、こつこつと努力し、自己研さんに努めていただきたいと思います。勉学にしても、仕事にしても同じです。昨年、富山県出身でノーベル化学賞を受賞された田中耕一さん懇談する機会がありましたが、田中さんはコツコツ努力するタイプの典型のように思いました。

皆さんには若さという大きな武器があり、人生に残された時間はたっぷりあります。将来の可能性は無限大です。

また、富山県は、魚やコメなど食べ物がおいしくて、就職先も多く、新幹線が開通するなど生活していく面でも住みよい県と評価されています。

この富山県立大学のキャンパスで、勉学やスポーツ、友人や先生との交流など、青春を大いに謳歌し、悔いのない素晴らしい大学生活を送っていただくことをお願いしまして、私の挨拶といたします。

平成27年4月6日

公立大学法人富山県立大学 理事長 寺井幹男